

昭和 59 年度  
シグマ特別専門委員会（シグマ研究委員会）議事録

- 日 時** 昭和 59 年 6 月 14 日（木） 11：00～17：00
- 場 所** 日本原子力研究所東京本部第 3 会議室
- 出席者** 原田吉之助（主査・原研）  
朝岡卓見（原研），飯島俊吾（NAIG），五十嵐信一（原研），  
池上栄胤（阪大），梅沢弘一（原研），大竹 巖（富士電機），  
神田幸則（九大），菊池康之（原研），白方敬章（動燃），梶山一典  
（東北大），関 雄次（FBEC），田中茂也（原研），田村 務（原研），  
中沢正治（東大炉），中嶋龍三（法大），西村和明（原研），長谷川明  
（原研），久武和夫（実践女大），藤田薫顕（京大炉，木村逸郎代理），  
松浦祥次郎（原研），松延廣幸（住友原工），村田 徹（NAIG），  
山室信弘（NAIG），  
オブザーバー：浅見哲夫（原研），喜多尾憲助（放医研），北沢日出男  
（東工大），鹿園直基（原研），橋爪 朗（理研），  
宮原 昭（名大）
- 欠席者** 小幡，菅原，関（泰），竹田，塚田，更田

**配布資料**

1. シグマ研究委員会の構成
2. 運営委員会議題（58 年度第 1 回～59 年度第 2 回）
3. 58 年度原子力学会「核データ・炉物理」合同特別会合
4. 原研核データセンターにおける数値データ等の入手と利用状況
5. シグマ研究委員会関係の論文・レポート（昭和 57・58 年度）
- 6-1 核反応データセンター第 7 回 IAEA 諮問家会合
- 6-2 荷電粒子核データについての会合議事録
7. 大学における核データ活動
8. 昭和 59 年度シグマ特別専門委員会委員
9. 諮問・調整委員会答申
10. シグマ特別専門委員会内規
11. シグマ特別専門 / 研究委員会 59 年度活動方針

12. 炉定数専門部会 59 年度活動計画
13. 崩壊熱評価ワーキング・グループ
14. 核構造データワーキング・グループ
15. 核種生成量評価ワーキング・グループ
16. 核データ専門部会
17. 医学用原子分子・原子核データWGの活動の現状
18. 1984 年核データ研究会プログラム案

## 議 事

### 1. 事務局報告

#### (1) 運営委員会報告

五十嵐氏から資料 2 により運営委員会（58 年度第 1 回～59 年度第 2 回）の概要について報告があった。

#### (2) 原子力学会関係報告

五十嵐氏から資料 3 にもとづき、58 年秋および 59 年春の原子力学会における「核データ・炉物理」合同特別会合の概要について報告があった。

#### (3) 核データセンター関係報告

浅見氏から資料 4 により核データセンターにおける数値データ・計算コード等の入手およびその利用状況、ならびに資料 5 によりシグマ委員会関係で昭和 57・58 年度に発行された論文・レポート類について説明があった。

#### (4) 学会企画委員会報告

楢山氏から「核データ・炉物理」合同特別会合が定着してきたことおよび 59 年度から企画委員を村田氏（NAIG）と交替することが報告された。

### 2. 委員会人事

先に郵便で行った本委員（特別専門委員）の承認の投票結果について説明があり、運営委の案通り承認されたことが報告された。また、59 年度から安、浅見（明）大林の 3 氏が特別専門委を退会したことの報告があった。

委員の補充のため、新たに北沢日出男氏（東工大）、鹿園直基氏（原研）、宮原昭氏（名大プラ研）を委員に追加すると云う運営委員会からの提案の説明があり承認された。

### 3. 大学関係の核データ活動

#### (1) 荷電粒子核データ

橋爪氏(理研)から、資料6-1および資料6-2を用いて荷電粒子核データに関するIAEAの諮問家会合、ならびに国内での打合せ会合の報告が行われた。その中で荷電粒子核データの活動を理研で行うに至った経緯、目的の説明とともにデータの収集はEXFORの型式で行うこと、格納するファイルの名称はRINDF (RIKEN Nuclear Data File)であること、当面は医学用RI生産の核データの収集・評価を行うこと等の話があった。

これに対して、現在のマンパワー等について質疑応答があった。

#### (2) 中性子核データ

梶山氏から資料7により最近の原子力学会および物理学会での大学関係の研究発表の状況、科学研究費による活動の現状等について説明があった。また、藤田氏から科研費による活動のうちトリウム関係の研究について補足説明があった。

#### 4. 主査の改選

事務局からシグマ特別専門委員会内規(資料10)の主査の人選の項についての説明とともに選挙が成立していることが報告された。また、投票に先立って立合人として諮問・調整委員が選出された。

投票結果が、立合人を代表して梶山氏から発表があり、原田氏20票、その他2票で、原田氏が主査に再選された。

#### 5. 主査の挨拶

再選の挨拶、今後の抱負などについて話があった。

#### 6. 諮問・調整委育会報告

梶山氏から「運営委員会から検討委託事項に対する答申」(資料10)について説明が行われた。答申の内容は(1)今後のシグマ委の活動の効率化のため、運営委員会にワーキンググループリーダーをオブザーバーとして参加させること(2)今後の国際協力のあり方として、アジア諸国との関係強化をはかること、欧州諸国との協力関係の促進、核データ国際会議の開催への努力を望むこと等であった。

これに対して主査からこれらの内容を尊重して活動に反映してゆきたいとの発言があった。また、答申の中で提案されていた運営委員の数についての内規(5)項を現行の「本委員の1/3以下」を「原則として本委員の1/3以下」と改正する件について審議を行い、提案通り承認された。次いで主査から次期の諮問・調整委員として飯島、大竹、神田、木村、鹿園、梶山、松延の7氏が指名された。

## 7. シグマ委員会 58 年度活動報告及び 59 年度活動計画

### (1) シグマ研究委員会

五十嵐氏から資料 11 によりシグマ委員会の 59 年度の活動方針の説明があり討議を行った。とくに、核データの利用活動の推進の項で、核データニュースなど広報活動について議論があり、この件については浅見氏が運営委に改善策を提案することになった。

### (2) 炉定数専門部会

長谷川氏から資料 12 により核融合炉遮蔽定数WGの DDX サブWG および 遮蔽定数サブWGでの最近の結果、今後の計画、ならびに JENDL 積分評価WGでの作業の経過、今後の計画などについて説明があった。

これに対して、共分散データに関する計画、核データの「修正」と「調整」の意味、DDX 作業の採り挙げている核種、遮蔽計算方法の現状等について質疑応答があった。

### (3) 核構造崩壊データ専門部会

崩壊熱評価WGの成果、59年度の作業計画について、中嶋氏から資料 13により説明が行われた。この中で  $^{232}\text{Th}$  の  $\gamma$  崩壊熱の実験値と計算値との間の大きな不一致は、 $^{232}\text{Th}$  の中性子捕獲反応の効果を補正すると良く合うとの説明があり、これに対して質疑応答があった。

核構造データWGについては資料 14 により田村氏から Mass chain 評価の現状と今後の予定を中心に説明があった。ENSDF の利用が増大していることに関連して、利用の便を計かり、利用を促進させることについて討議が行われた。

核種生成量評価WGの作業の現状と 59 年度の計画については中嶋氏から資料 15 により説明があった後、松浦氏から補足説明があった。これに対してなるべく早くレポートをまとめて欲しいとの意見が出た。また解析の対象となるデータに日本のものがないとの意見が出たが、このWGの当初の目的は核データのニーズを掘りおこすことであり、日本の電力会社からデータを出してもらうためにも早くレポートをまとめる必要があるとの指摘があった。

### (4) 核データ専門部会

資料 16 により菊池氏から核データ評価WG内の各サブWG、FP核データWG、核融合核データWG、ガンマ生成核データWG、ファイル作成WGについて作業の現状と今後の計画について説明が行われた。この中で、JENDL-2のFPデータは8月頃までにファイル化を終える予定であること、専門部会の全体会で

JENDL-2 の status review をする事にしたこと等の話があった。

これに対して、JENDL-3 と JEF との関係について議論があり、JEF は非公開であるので JENDL-3 を進める際には JEF を考えない方がよいこと、JENDL-3 は公開であるとの前提で進めているが役所との関係で手続きなどの面倒な問題もあること等の説明があった。また個々の評価データの著作権の問題を考えておく必要がある、JENDL-3 PR1 について公表できる範囲、引用の仕方についてはっきりさせて欲しい等の意見があった。

#### 8. 医学用原子分子・原子核データWGの活動の現状

喜多尾氏（放医研）から資料 17 および OHP を用いて、このWGの発足の経緯、メンバーの構成、目的、今後の作業予定について説明が行われた。また、現在作成中の報告書の概要、計画中のデータブックについても説明があった。

これに対して質疑応答が行われた。とくに、放射線治療の方向が変わるとデータニーズも大幅に変わるのではないかとこの質疑について議論が行われた。

#### 9. 1984年核データ研究会

五十嵐氏から資料 18 により、今年の核データ研究会は 11 月 13 日～15 日に開催の予定であり、とくに、本年はアジア地区の 4 カ国へ招待状を出したことが報告された。

#### 10. 1988/89年核データ国際会議の準備

原田氏から核データの国際会議を日本で開催する件について前向きで考えているが準備小委員会を作ってさらに具体的に検討したいとの話があり、次の各氏が準備小委員に推薦された。（敬称略）

大学関係：木村，秋山

民間関係：菅原，川合

原 研：五十嵐，菊地

この件に関して討議が行われ、物理学会にも連絡をとった方がよい、過去の国際会議の例も調べた方がよい等の意見が出た。これに対して、原田氏からまだ時間が十分にあるので時間をかけて検討し、今年度内に大枠をはっきりさせたいとの発言があった。